

一般選抜 解答例

小 論 文

問 1

最近、ヘルプマークをつけている人が増えてきた。これは、外見からはわかりにくい障害や病気のある人が支援を求めやすくするためのマークである。しかし、年代が上がるほどマークの認知度は少なくなるので、適切な使い方の周知や啓発が欠かせない。他者への思いやりにかける風潮が広がる中、多様な人々が共生できる社会をつくるためには、マークのような小道具を使うこともその一助になる。マタニティマークや認知症ヘルプマークなどがあるが、共生社会をつくるためには、これを周知し適切に使用することが不可欠であると考える。(249 字)

問 2

55～64 歳と 68～77 歳を比較すると、55～64 歳では「現在の生活費のため」が男女ともに最も高く、次いで男性は「将来の生活資金のため」、女性は「現在の生活費を補うため」となっている。68～77 歳では「健康を維持するため」が男女ともに最も高く、次いで男性は「現在の生活費のため」、女性は「社会とのつながりを維持したいから」となっている。働き盛りの世代では将来の生活資金や現在の生活費の確保が重要だが、70 歳前後になると生活費に対する不安よりも健康や社会とのつながりへの関心が高まると考えられる。(237 字)